

麒麟名古屋工場が、「水源の森づくり」活動

5月15日通称 笹池草地約5ヘクタールのうちの約1ヘクタールで、麒麟名古屋工場の社員のみなさんが、3年前に植樹した場所を、町内のボランティアの皆さんや町職員、県職員と協力して下草刈り作業を行いました。この下草刈り作業は、若木が育ちやすいよう環境を整えるため育林支援活動として行うもので、参加したみなさんは草刈り機や鎌などを駆使して約2時間で手際よく作業を終え、その後体験事業として直径約15センチの丸太をのこぎりで素速く切る、丸太切り体験を行いました。

今後は、間伐や下草刈りなどの継続的、定期的な保全活動を実施していく予定です。



下刈り作業に汗する麒麟名古屋工場のみなさん

役場庁舎前を花で飾りました



花植えに参加した農業婦人クラブのみなさん

6月1日、八百津町農業婦人クラブ（山本康子会長）の会員7人が、プランターや役場前花壇にベゴニアの苗200株を植え、同庁舎前のフラワースタンドに並べ、来庁したお客さんの目を楽しませていました。

同クラブは平成4年から19年間この活動を続けており、毎年春と秋の2回、季節に合わせた花を飾っています。

この日は町職員も手伝い、腐葉土と町内牧場から譲り受けた牛ふん堆肥を混ぜ合わせてからプランターに詰め、苗を植えました。苗は既に花をつけており、赤、白、ピンクのベゴニアがきれいに並び、来庁者も足を止めて眺めていました。

山本会長は「庁舎前に花があるだけで雰囲気はぜんぜん違う。お客さんがこの花を見て安らいでいただければうれしい」と話していました。

山、木、家に対する熱い思いが伝わってきました

6月1日八百津町八百津の岡崎製材所に、美濃市曾代の岐阜県立森林文化アカデミー 森と木のエンジニア科の学生29人と廣田桂子教授が訪れ、教室に仕立てられた製材工場内で、社長の岡崎定勝(66)さんから、現場で培った経験や知識、知恵などを学びました。

この授業は、同校の校外授業のひとつとして行われたもので、廣田桂子教授が審査員を務めた「平成21年度 ぎふの木で家づくりコンクール(主催 岐阜県)」で岡崎製材所の「池の見える家」が最優秀賞を受賞したことがきっかけで実現しました。

岡崎社長は、八百津町がかつて木曾川の舟運で栄えた歴史なども踏まえながら、山の守り方、伐採する木の選定方法や切り方、切った木の運び方、木の種類や部位、建築に使う場所などによって製材方法が異なること、日本建築のすばらしさや難しさ、こだわりなどを、スライドや実物を使いながら熱心に学生らに語っていました。また、学生からも数多くの質問が飛び交い、学生や岡崎さんらの山、木、家に対する熱い思いが伝わってきました。



学生らに熱心に講義をする岡崎社長